



平成24年3月期 決算報告

クボテック株式会社

経営成績

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成24年3月期)	前期 (平成23年3月期)	来期予想 (平成25年3月期)
売上高	3,328	5,041	3,400
営業利益	△ 209 (△6.3%)	531 (10.5%)	65 (1.9%)
経常利益	△ 235 (△7.1%)	510 (10.1%)	40 (1.2%)
当期純利益	△ 262 (△7.9%)	449 (8.9%)	30 (0.9%)

- ◎当期は、液晶を始めとするFPD分野は、スマートフォンなどの中小型パネル市場は成長する一方で、液晶テレビなど大型パネルの設備投資は、慎重な動きとなりました。
- ◎売上高は、こうしたFPDメーカーの設備投資見直しの影響を受けて、画像処理外観検査装置の売上が大幅に減少し、利益面でも大幅な減益となり赤字となりました。
- ◎海外子会社は堅調に推移しましたが、米国では売上が計画を下回り、固定経費を削減したことから損失を計上しました。
- ◎来期も、画像処理外観検査装置は依然厳しい受注状況が続くものと予想されます。液晶以外の市場ニーズに対応した検査装置の開発、市場開拓に注力するとともに、創造エンジニアリング、メディアネット事業の拡大を図り、安定した事業運営と利益確保に努力する所存です。

貸借対照表

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成24年3月期)		前期 (平成23年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
流動資産				
現預金	2,199	38.6	2,364	38.1
売上債権	999	17.5	1,015	16.4
たな卸資産	578	10.1	784	12.7
その他	△ 3	0.0	5	0.1
固定資産	1,924	33.8	2,029	32.7
資産計	5,697	100.0	6,198	100.0
流動負債	2,749	48.3	3,279	52.9
固定負債	1,232	21.6	944	15.2
負債計	3,982	69.9	4,224	68.1
資本金	1,951	34.3	1,951	31.5
利益剰余金	△ 214	△ 3.8	47	0.8
その他	△ 21	△ 0.4	△ 25	△ 0.4
純資産計	1,715	30.1	1,974	31.9
負債及び純資産計	5,697	100.0	6,198	100.0

◎総資産は、前期末に比べ現預金、たな卸資産などで約5億円減少し、57億円となりました。

◎負債は、前期末に比べ仕入債務の減少などで約2億円減少し、40億円となりました。

◎純資産は、純損失の計上から約2億円減少し、17億円となりました。

報告セグメント別売上高

(単位:百万円)

	当期 (平成24年3月期)		前期 (平成23年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
日本	2,810	84.4	4,570	90.7
米国	248	7.5	232	4.6
韓国	269	8.1	238	4.7
計	3,328	100.0	5,041	100.0
うち海外	2,280	68.5	4,262	84.5

◎日本では、メディアネット機器は震災復興需要等もあり売上が伸長しましたが、主力製品である画像処理外観検査装置が、FPDメーカーの設備投資計画見直しの影響を受け、前期に比べ大幅な減収となりました。

◎米国では、3DCADシステムの売上が北米向けに堅調でしたが、新製品の3Dモデル検証ツール「Validation Tool」が伸び悩みました。またコスト構造改善のために固定費の削減に取り組みました。

◎韓国では、画像処理外観検査装置の部品販売が、韓国のユーザー向けに順調に伸びました。

キャッシュ・フロー計算書

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成24年3月期)	前期 (平成23年3月期)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 511	1,251
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 140	△ 182
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	493	△ 122
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 3	△ 2
V.現金及び現金同等物の増加額	△ 163	943
VI.現金及び現金同等物の期首残高	2,269	1,326
VII.現金及び現金同等物の期末残高	2,106	2,269

◎営業活動によるキャッシュ・フローは、純損失の計上や仕入債務の支払などから、5億円の支出となりました。

◎投資活動によるキャッシュ・フローは、CAD/CAMソフト「KeyCreator」の開発投資などにより、1億4千万円の支出となりました。

◎財務活動によるキャッシュ・フローは、新規借入により4億9千万円の収入となりました。

受注状況

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成24年3月期)	前期 (平成23年3月期)
受注高	99	4,413
受注残高	343	2,747

◎当期は、主力製品である画像処理外観検査装置は、液晶テレビの不振などからFPDメーカーや硝子素材メーカーの設備投資が急減速し、前期に比べ受注、受注残高はともに大幅に減少しました。

◎来期は、有機EL、高機能フィルムなど従来の液晶以外の検査装置の開発、市場開拓にも注力し、受注を確保する方針であります。

まとめ

- ◎液晶をはじめとするFPD分野では、液晶テレビなどの大型パネル市場は急激な市場環境の変化から大手FPDメーカーの設備投資は慎重となり、先送りされております。
- ◎当社グループは、こうした受注環境の悪化から主力製品である画像処理外観検査装置の販売が、年度後半から急減し、売上全体でも大幅な減収となりました。
これまでも原価改善と固定費削減によるコスト構造の見直しに取り組んでまいりましたが、当期は減収の影響が大きく、赤字を計上するに至りました。
- ◎来期は、画像処理外観検査装置の製品競争力をさらに高めるとともに、液晶以外の市場ニーズに対応した検査装置の開発、市場開拓に注力します。
また、安定した事業運営のためには、これまで投資を続けてきた創造エンジニアリング事業、メディアネット事業の拡大と収益力の向上が重要であります。
さらに新製品開発と海外子会社強化で、当社グループの事業構造の改善を進める方針です。